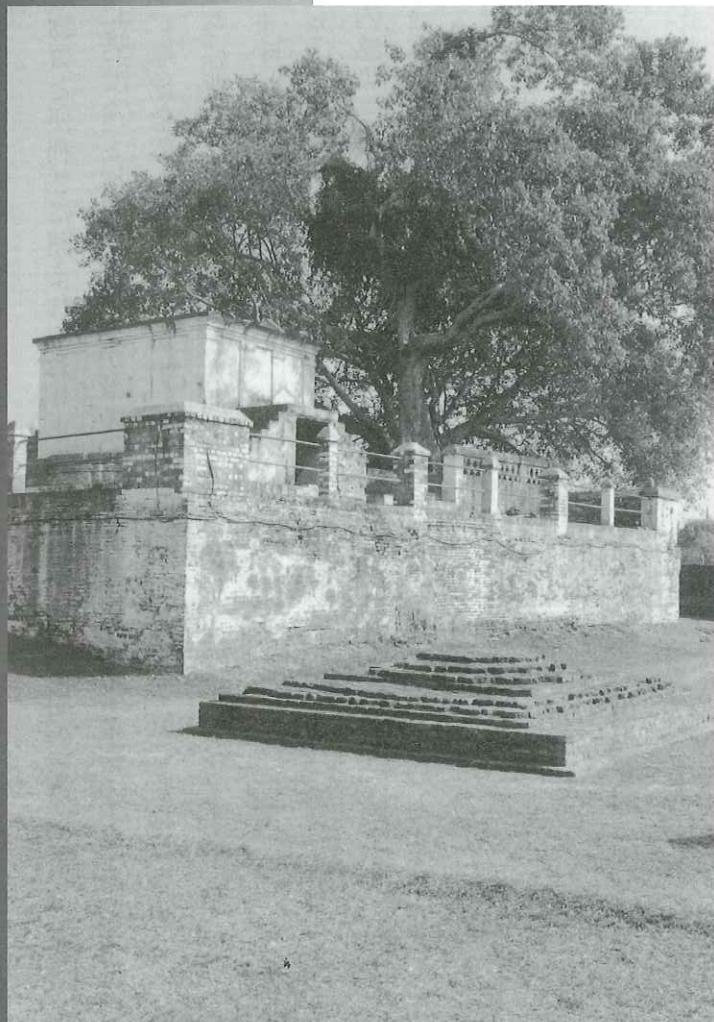




かながわ

No.10 1997.3.15

身边なお寺の情報誌



ネパール・ルンビニのマーヤ夫人堂 (撮影:宮本義宣)

釈尊誕生の地・ルンビニ

紀元前463年頃、釈尊はルンビニで誕生した。ルンビニは今日ネパール国で、インドとの国境からほんの数キロの地点である。シャカ族の王妃マヤ夫人が実家に行く途中、東を向いて木の枝を握ったとき、夫人の右脇から釈迦が誕生したと伝えられる。

現在、その地には、マーヤ夫人堂という小さなお堂が建てられてあり(写真)、中に釈迦生誕の石像がある。現在、学術を目的にお堂は解体され、発掘調査されている。



私たちの生活は、豊かな物質と便利さに囲まれております。世界では、文明の恩恵に浴しているのはごく一部で、飢えと病苦に苦しんでいる国や地域が数多く存在します。科学技術の文明の発達は、数多くの環境汚染をつくり、地球全体を蝕んでいます。空も海も土も水も空気も植物も動物も、私たちを包むすべてが私たちに背を向けています。人間だけの幸せを追い求めたツケは、私たち自身に跳ね返ってきています。

とくに、昨夏以来、猛威をふるった病原性大腸菌O-157や他の食中毒、また、エイズ・エボラ出血熱・MRSA（院内感染）などは、抗生素質が毒素産生の引き金となつて効きにくいたい性菌が出現した結果と言われています。つまり、細菌が環境変化に抵抗しようとする現れなのです。

日本の衛生状態は、世界一であると信じて疑わず、その「安全神話」に浸りきついた私たちは、「封じ込め神話」が崩れたことに気がつかされたのです。それは、武力によらぬ血のない脅威にさらされているということです。新たな感染症の出現原因は、熱帯雨林など奥地開発に伴う未知の病原体と人間との遭遇、生態系や気候の変動による微生物の突然変異などが指摘されています。人間の食物その他が短時日に世界流通する今日、いまや地球上では対岸で済まされる病原体は存在しないと言われています。結果、免疫力の低下と致死率の高さへの不安感が大きく広がっています。今までの私たちの生活が、心の外側ばかりを飾つてうまく生きていく生き方や自分の願望（欲）だけを満たそうとする生き方から、自分の心の内側に向けています。結果、免疫効率の低下と致死率の高さへの不安感が大きく広がっています。

「今この時代の生き方としてこれで良いのか」、「私の人生にとつて何が大切であるか」という視点へ転換していくことが望まれています。つまり、「自分が動植物の生態系などの自然環境という他を顧みず、他を



滅し続いている生き方」を反省し、

人類や地球環境全体が共に生きる生き方へ転換する

努力が必要ということです。

私たちの自己中心のこころ・我欲といつたものに惹起している様々な問題を抱える現代社会において、それを乗り越えて行く道、すなわち、「お念佛の道」を歩むということを私たちは考えねばなりません。それは、この世を生きる意味と生き方を考えるということになります。

仏教では、「この私が人間に生まれてきた目的は、お淨土へ生まれ往くことである」と説かれます。「お淨土に生まれ往く」ということは、単に「来世を願う」あるいは「現実から逃避する」ということではなく、「どうこの世を生きぬくか」ということを問うているのです。

私たちは、「生死」ということを、人間の分別により二つに分離する考え方ではなく、この「生死」を包含し一体と受け止め、それが大きなのちの営みと考えるべきなのです。常識的な生死の世界ではなく、生とはいがなる苦や逆境をも乗り越え力強く生き抜く世界であり、死とは死んで無になる虚しい世界ではなく、新しい光明の世界に生まれることなのです。そこから、自己中心にしか生きられない私たちの存在が、阿弥陀如来の智恵と慈悲に照らしだされた時に、おのずからどう生きていくべきかが知らされるのです。

生死の苦海ほとりなし ひさしくしづめるわれらをば

弥陀弘誓のみだぐぜいのふねのみぞ のせてかならずわたしける

（親鸞聖人・ご和讃）

法 話

淨土に生まれ往くということは、
どうこの世を生きるかということ

宮本 義孝 (高元寺住職)

組長就任あいさつ

林 信順



■東京教区仏教婦人連盟結成四十周年記念大会

六月三日(火)・幕張プリンスホテル

本年は、東京教区仏教婦人連盟が結成されてから四〇周年となります。

大会のテーマは、「めざそう! それぞのイノベーション」ということで、「仏教婦人会が組織として、ひとりの門信徒として、それぞれの改革をはかりましょう」ということです。当日は、連盟総裁の大谷範子お裏方

宗門としては、一九九八(平成十)年に、ご本山で蓮如上人五百回遠忌法要が修行されます。組としても団体参拝の募集などいよいよ具体的に動き始めなければなりません。また、東京教区の五百回遠忌法要も本年十月に厳修されることが決まりました。

神奈川組の行事も、第四期連続研修会など年々充実してきました。当組は、神青会(神奈川組青年僧侶会)を中心に若手の活躍がめざましく、また、新しい寺院や布教所が育ちつつあり、ますます充実した組になろうとしています。

これからは今まで以上に、門信徒のみなさまと接する機会も多くなることと思います。今後も、人の和を大切にしながら、みなで協力しあつていける組でありたいと思つております。



のご臨席のもと、「わたしの蓮如さん」を演じて、新屋英子さん(関西芸術座女優)による講演が予定されています。また、イベントでは、「私のイノベーション宣言—蓮如上人にお遇いして」が行われます。

■東京教区・蓮如上人五百回遠忌法要

鏡如上人(前々門主)五十年遠忌法要平成十年には、本山にて蓮如上人五百回遠忌法要がつとまりますが、それに先立ち、東京教区として、本年十月二日(木)にわたり「お待ち受け法要」が執り行われます。

神奈川組の動き

▼連研(第四期・連続研修会)

連研は、門信徒の皆さんに、浄土真宗のみ教えを体系的に学んでいただくことを目的に開催されています。偶数月

■神奈川組仏教壮年会
結成以来六年目を迎えるこの会は、現在男女合わせて約一五〇名の会員が活動中です。主な活動は、早島鏡正師(宣正寺前住職・東大名誉教授)を講師に迎え、「正信偈に聞く」をテーマに研修会が年5回開催されています。

慶弔覧

- ◆慶賀
十一月十七日
慈恩寺設立・住職就任・開教十周年慶讃法要
- ◆還淨
五月二三日 古市 溪峰師
(常念寺住職)
- 九月二〇日 永野 純然師
(善然寺住職・神奈川組々長)
- 九月二十五日 雲居 興隆師
(長延寺前々住職)

▼神奈川組仏教婦人会連盟「めぐみ会」「めぐみ会」は、組内各寺院の婦人会の連盟です。毎年、総会・研修会を開催しています。また、各寺院で実施しているダーナ募金を取りまとめ、宗派を通して社会福祉に役立てています。

教区の動き

蓮如上人 ゆかりの地

京都山科編

舎を建て、移るまでの七年間ここで生活された。現在でも南殿幼稚園の奥には、蓮如上人自ら設計された庭園がある。



蓮如上人御廟所（京都市山科区）
大谷本願寺が破却されて以降、蓮如上人は十五年間、畿内・北陸を転々と過ごされた。現在の（東西）山科別院一帯の地に、文明十二（一四八〇）年御影堂が造営され、同十五年には阿弥陀堂も完成した。ここに本願寺は再興された。その後、天文元（一五三二）年第十代証如上人の時、六角定頼らの攻撃をうけて焼失した。

蓮如上人の行実
蓮如上人は、四十三才で本願寺第八代門主を継承されました。教団興隆の功績は多大なもので、「中興の祖」といわれています。その行実は、まず「御文書」をもって伝道教化されたことです。その「御文書」とは、宗祖親鸞聖人の教えを平易な文章で自由自在に表現されたもので、広く門徒に披露され、信仰を語り合う規範となりました。一通の「御文書」がその伝道に果たした意義は重要なものがありました。

また、蓮如上人は、宗教儀礼の簡易化をはかるため、朝夕のおつとめを誰でも勤められるよう『正信偈和讃』を口常勤行として定められました。『正信偈和讃』は、親鸞聖人の『正信偈』と『三帖和讃』を合体させたものでした。

南殿（京都市山科区）
延徳元（一四八九）年、寺務を実如上人に譲り、山科本願寺の東にある南殿（現・光照寺）に隠居された。大坂に坊（現・光照寺）にてご往生された。

蓮如上人指図の井戸（京都市山科区）
南殿のあるこの地では、井戸水がまつたく出ず、住む人々はたいへん困っていました。その姿を見かねた蓮如上人が、ここを掘るよう指図をされ、掘ると水が湧き出した。今なお枯れず、「蓮如上人指図の井戸」として大切にされている。



◆蓮如上人略年譜◆

一四五（応永二）	誕生。
一四三（永享二）	一七才 青蓮院で得度。
一四五（長禄二）	四三才 第一回、蓮如上人止寂。本願寺第八代繼職。
一四六（寛正元）	四六才
一四七（文明三）	四七才 初めて「御文書」を書く。
一四六（寛正六）	五才 比叡山衆徒、大谷本願寺を破却。
一四八（延徳元）	五七才 越前古崎に坊舎を建立。
一四九（明応六）	八才 寺務を実如上人に譲り、南殿に隠居。
一四九（明応八）	八五才 大坂に御坊を建立。
	大坂から山科へ。蓮如上人止寂。

本福寺（大津市本堅田）

寛正六（一四六五）年、比叡山の衆徒によって大谷本願寺を破却された蓮如上人は、親鸞聖人の御真影とともに大谷を脱出、京都・近江を転々とされた。文正二（一四六七）年本福寺第三世法住の努力により御真影は本福寺に移された。本福寺には蓮如上人より授与された金泥で書かれた十字名号が残される。境内には「蓮如愛樹の梅」として上人がこよなく愛したという梅の木がある。

近くには、三井寺に親鸞聖人の御真影と引き替えて首を献上した門徒の源兵衛ゆかりの寺（光徳寺）がある。

金森道場（道西坊）（守山市金森町）
蓮如上人の時代、湖西（堅田）には法住、湖東（金ヶ森）には道西といふ門弟がいた。蓮如上人が著した『正信偈大意』『御文書』は、いずれも道西の要請によ

琵琶湖編

大阪編

石山御坊

（大阪市中央区大阪城）

蓮如上人八十二才の明応五（一四九

六年、現在大阪城の地に坊舎が建立された。城内には蓮如上人貞筆の南無阿弥陀仏の名号を彫った顯彰碑が建てられている。石碑の裏には、戸外で、ご法話された時に袈裟をかけたといわれる『蓮如袈裟かけ松』が残されている。

後に、山科本願寺が焼き討ちされるところに本願寺が移され、「石山本願寺」となった。しかし、信長との合戦で石山本願寺は引き渡され、その後、秀吉によってその地に大阪城が建立された。



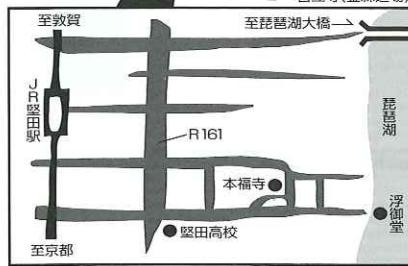
るものであった。また、山科本願寺の建立を進言するなど、道西は蓮如上人の伝道の助けをした人物であった。道西の道場は、現在善立寺と因宗寺によって護持され、『筆始めの御文書』など道西と上人のゆかりのものが残されている。

討ちにあい（寛政の法難）、蓮如上人は難をさけて、祖師の御影を背負い堅田そして、赤野井の地まで逃れて来た。さらに追い討ちにあい、この時、赤野井の慶乗や多くの門徒が上人の身を守るために殉死した。その方々を葬った築山が別院の南にあったが、現在は今地に移され「殉教者の碑」が建てられている。

別院には、この地で活動された実子蓮淳師に蓮如上人が送った御絵伝と親鸞聖人画像が所蔵されている。

赤野井別院／本願寺派
（守山市赤野井町）

寛政六（一四六五）年一月、比叡山延暦寺の衆徒により京都大谷本願寺が焼き



いじめのやめ方

「見て見ぬふりをするのも
いじめているのと同じ」と

いじめとは、「長期間にわたり継続的に、ひとり又は少數のものに対し、心理的又は物理的な攻撃により苦痛を与えること」です。そして、いじめは、マスクに取り上げられるようなことにまで発展しないまでも、特別な事件ではなく学校生活の中で頻繁に起こっている日常の問題であるのです。

中学3年の喜多晶子さんの「いじめられた苦しみといじめた後悔」という作文に、

「いじめ。あなたはしたことがありませんか。したことがないといいりますか。回りのある子がいじめられている時、見て見ぬふりをしてませんでしたか。怖いんだよね。――

かばつたり助けたら、次にいじめられるのは自分だと思うから。そんなこと、かっこつけてるとか、良い子ぶりつっこか偽善者だって言われるから。だからかばわない。だから助けない。だから見て見ぬふりをする。

――それって同罪だよ。――
なんで。仲間に加わってない。だから、僕は・私はいじ

法 燈 明

めてない。そう思っている人はいませんか。いじめられたくない。だから仲間に加わってしまう。そんな人もいませんか。」（『川崎市人権作文集』より）

摘要しています。現実にはその立場の子どもたちが大多数であり、そのことが、いじめの状況を深刻にしているとも言えるのです。

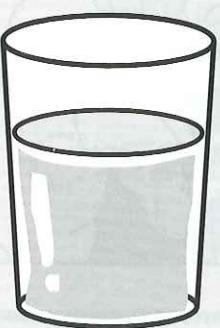
いじめという社会問題を解決することは、非常に難しいことであると思います。まず個々のいじめを発見し、それを解決しない限りいじめられ

ている子どもにとって問題の解決にはならないからです。「いじめられたと遺書に書いてな」といじめられているケー

スの報告もあり、いじめはますます巧妙になり陰湿化しています。解決のためには、友人や学校、家庭や地域社会の人協力が必要不可欠です。

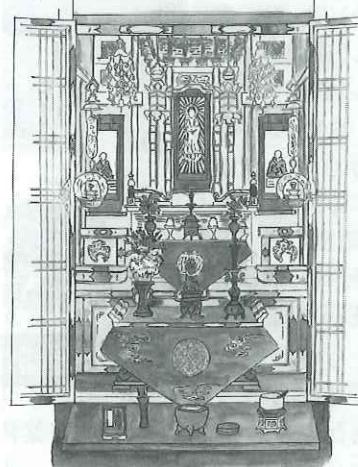
◆究極のミネラルウォーター◆

水道水そのまま飲むことのできる日本にあつては、飲料水を買うところには、かつては違和感がありました。でも近年は、ミネラルウォーターの各種銘柄が店頭に並び、その需要は伸びてきました。ところで、仏さまの浄土には「八功德水」というすぐれた天然水があると示されています。『俱金論』といつも仏壇には、その八つの特質について、「甘」「冷」「軟」「軽」「清浄」「不臭」「飲時不損喉」（のどを損しない）・「飲已不傷腹」（腹を痛めない）などの性質が記されています。これが究極のミネラルウォーターということでしょうか。ともあれ、水を大切にしましょう。人間は水なしでは生きられないのですから。



仏事のこころえ

『次男・三男の家に、なぜ仏壇がないの?』



「我が家は次男ですし、今まで亡くなつた人もいなかつたのでお仏壇がありませんでした。この度新しくお仏壇を購入しなければならないのですが——」との相談を受けることがあります。

実家に仏壇があれば、分家した次男や三男の家には、死者が出るまでは仏壇は無用であるという考え方があります。「分家に仏壇があると、先祖がうろちよろ迷つてしまつ」とか、「何でもない時にお仏壇を買うと死人がでる」とまことしやかに言うひとがいます。これらは、お仏壇の意義を取り違えていることから生じている考え方です。つまり、「お仏壇は、死者の宿るところ」という誤った理解をしていることから生じているのです。入れ物（仏壇）があれば、中身（死者）がなければ納まりが悪いということなのです。

本来、お仏壇は、ご本尊（阿弥陀如来）をご安置するところなのです。ご本尊を通して、私たちが阿弥陀さまのお慈悲の中で生かさせていただいていることを味わうのです。そして、ご先祖も阿弥陀さまのお浄土に生まれさせていただいていることを確認するのだと、誤解から生じた迷信に振り回されているのだということに気づかなければなりません。

平成10年度 蓮如上人五百回遠忌法要
神奈川組団参旅行のご用命誠にありがとうございます。
誠心誠意お手伝いさせて頂きます。

近畿日本ツーリスト 横浜団体旅行支店

T231 横浜市中区港町2-9 関内駅前第二ビル

TEL.045-681-6431 FAX.045-641-7026

担当／大迫・五所・濱田

四苦八苦

お釈迦さまは、悟りを開かれたのち、最初の説法で、「人生は苦である」と説かれました。その中で、私たちが日常よく使う言葉の『四苦八苦』が説かれています。

四苦八苦のうち、『四苦』は、生・老・病・死の四つの苦しみが説かれています。生まれると、老い、病み、死ぬという、私たちが避けて通ることのできない生きることの苦しみをあきらかにされています。

そして、「愛別離苦」（愛するものと別れる苦しみ）、「怨憎会苦」（怨み憎むものと会う苦しみ）、「求不得苦」（求めるものが得られない苦しみ）、「五蘊盛苦」（人間の心身を形成する色・受・想・行・識から起くる苦しみ）」の四つを加えて、『八苦』とされたのです。

これからもわかるように、前の四つの苦しみは、人間が生身の体を持つてゐるために起こ

現実逃避では、 本当の安心は 得られない

る苦しみであり、後の四つの苦しみは、人間が人間であるがために味わう心の苦しみなのであります。したがつて、『四苦八苦』には、私たちがだれでも持つてゐるはずの苦しみが凝縮されているのです。

そのため私たちは、大変な苦しみとか、非常に困難な状況に直面して苦労をしているさまを、この言葉で表現しているのです。

しかし、現代の風潮では、一時的な仮の快樂にしがみついて、現実の苦しみからは目を背けてしまう傾向があります。お釈迦さまが、「人生は苦である」と説かれたのは、現実から目をそらしたところには、本当の安心は得られないということを示されたのです。苦そのものから目をそらしている限り、苦への対策は何もできないのです。



私の出遇つた
この一冊

「脳内革命」を 辛口書評 F.K.

要旨は、食事は腹八分で、良質のタンパク質をとり、適度の運動をして筋肉を衰えさせないように、そして、くよくよしないで、明るくのびのびと、ストレスを貯めないで生きるように心がければ、125才まで生きられる。ということに集約できるでしょう。

では、なぜ、こんなにも売れたのでしょうか。

その一、漢方に代表される“東洋の医学”と、科学に代表される“西洋の医学”という「水と油」が解け合ってしまうシチュエイションに、現在主張されている文化や経済や思想の“東西融合路線”とが重なってしまった。

その二、日本人は肩書きにすごく弱い。東大医学部卒の「外科医」が、「脳神経」の話を“断定的”に進めていく論法に捕まつ

てしまい“専門家の話”として、受け止めてしまった。

その三、“健康願望”と、現実の“健康不安”に対して、「通常の自己管理で心配ない」との強い味方の“ご託宣”。

現代人の一人一人は、少々の“自己管理”はしている“つもり”になっているのですから。(他人からはどう見えようが…)

この三点を踏まえてみると、現代人の弱さのありようが見えてきます。

一、健康管理と不安のギャップ

二、科学的なモノの味方

三、情報に過敏に反応

の三点から、“不安の現代”に安心を求める現代人の傾向と、それを“力み頼み”にするのではなく、一応“科学的な分別”を信頼して、「それ本が出た。信用できそうだ」に飛びついてしまった人が500万人。これはすごい数です。

でも、ちょっと立ち止まってみましょう。内容は、前にも述べたとおりの“常識的”な枠の中で、「心とからだ」のバランスを保ちましょうと進んでいきます。

科学者といわれているこのお医者さまの多方面の“医療事業”の現実を見ると、儲かる“経営”的文字が妙に大きく見えてくるような気がします。

蓮如上人500回遠忌法要

京都西本願寺参拝と蓮如上人ゆかりの北陸路の旅

◎期日 平成10年6月11日(木)~13日(土) 2泊3日
◎会費 72,000円

◎お申込・お問い合わせは、各所属寺院へ

旅行取扱

東武トラベル(株) 横浜支店

横浜市西区北幸1-11-7
TEL.045-311-8251

お寺を訪ねて(9)

神奈川組では、昨年まで22のお寺と5つの布教所がありました。昨年(1996年3月29日)横浜緑布教所が神奈川県より「宗教法人慈恩寺」の許可を取得、同時に宗門(浄土真宗本願寺派)より「慈恩寺」の寺号公称を許可され、小泉敬信師が住職就任の辞令を拝受されました。よって慈恩寺は神奈川組23番目のお寺となりました。神奈川組に新しくお寺が設立されたのは、実に五十年ぶりのことです。

慈恩寺は、1987年11月1日、緑区中山町に本願寺築地別院「横浜緑布教所」として開所、一般家屋をお借りして寺院活動を開始しました。まさにゼロからのスタートがありました。ご住職とお子さんで寺院活動の案内を持って一軒一軒廻ったこともあったそうです。時はバブル景気のまっただ中、寺院活動の拠点を見つけることも思うように運びませんでした。平成元年に現在の地に境内地を得、1990年10月に本堂兼庫裏を完成させ、やっとの思いで拠点ができました。場所は、港北ニュータウンと呼ばれる新しい住宅地の一角で、当時はまだまわりには住宅は殆どなく、まさに都市開拓^(注1)として最適な場所に恵まれました。

現在の港北ニュータウンは、市営地下鉄の開通等の発展を遂げ、慈恩寺付近も閑静な住宅街となっています。慈恩寺では毎月第4土曜日の定例法座を開くなど、寺院活動も軌道に乗ってきました。また住職の小泉敬信師は、ハワイ開教使時代の経験を生かし、医学の急速な進歩の中で最近生じてきた末期医療という現場で、患者やその家族の心の支えとなるための“ビハーラ活動”にも積極的に参加をされています。

“ビハーラ活動”などに関心のある方は、是非一度、慈恩寺にお参りされてはいかがでしょうか。

※注1 都市開拓 人口急増地に、浄土真宗のみ教えを広める拠点(寺院)を造るための、本願寺派の活動。



—神奈川組23番目のお寺設立—

じ おん じ
慈恩寺

(横浜市都筑区加賀原2-18-1)



ビハーラ電話相談

—老いの悩み、病の苦しみに—

相談日
毎週月・金／午後2時～5時

浄土真宗東京ビハーラ(築地本願寺内)

TEL.03(5565)3418

テレホン法話

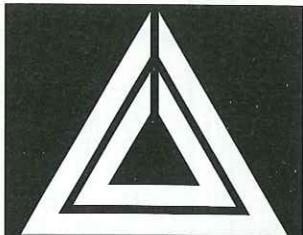
ちょっと一息。電話で仏さまのみ教えを!

- 築地本願寺こころの電話
TEL.03(3541)0282
TEL.045(662)5629
- 長念寺テレホン法話
TEL.044(911)8282
- 横浜布教所テレホン法話
TEL.045(341)5700

お手々のしわとしわをあわせて…しあわせ

お仏壇の はせがわ

お仏壇のある豊かな暮らしをお届けします。



お仏壇の
はせがわ



しあわせ少女 たばさちゃん

△お仏壇のはせがわ

会社概要

★全国123店舗★関東地区82店舗★業界初の上場企業★

製造部
(株)はせがわ美術工芸(国宝美術品、寺院神社)
(株)長谷川仏壇製作所(純金箔仏壇)
長谷川江川木工(株)(唐木仏壇)
(有)長谷川唐木仏壇製作所(唐木仏壇)

概要
昭和59年 京都西本願寺阿弥陀堂 昭和大修復事業
昭和62年 京都清水寺開山堂御厨子・三重塔 堂内修復事業
昭和63年 福岡証券取引所業界初の株式上場
平成6年 大阪証券取引所第2部上場

横浜・川崎地区の店舗ご案内

●金沢文庫店	横浜市金沢区谷津町352-7 オオサワヒルズ1F	☎ 045-701-4594
●上大岡店	横浜市港南区日野5-1-25	☎ 045-844-5740
●戸塚店	横浜市戸塚区柏尾町440-1	☎ 045-824-1166
●今宿店	横浜市旭区今宿東町1621	☎ 045-951-5311
●新杉田店	横浜市磯子区杉田1-2-3	☎ 045-774-6011
●長津田店	横浜市緑区いぶき野3-1	☎ 045-983-1001
●鶴見店	横浜市鶴見区駒岡町4-23-4	☎ 045-583-2271
●川崎店	川崎市川崎区東田町2-1	☎ 044-222-7577
●鷺沼店	川崎市宮前区東有馬1-1-19	☎ 044-852-1268

営業時間／午前10時～午後7時 日曜・祝日も営業いたしております。

わたくしたちのお寺です



浄土真宗本願寺派

神奈川組

えんこうじ 円光寺	〒210 川崎市川崎区台町4-21 石川 康承 ☎ 044-266-2677	ちょうとくじ 長徳寺	〒224 横浜市都筑区牛久保西3-9-1 平塚 大乗 ☎ 045-911-7351
ほうえんじ 宝円寺	〒210 川崎市川崎区境町5-10 飯田 琢亮 ☎ 044-222-3941	じおんじ 慈恩寺	〒224 横浜市都筑区加賀原2-18-1 小泉 敬信 ☎ 045-934-8648
こうとくじ 光徳寺	〒210 川崎市川崎区京町1-14-3 林 信順 ☎ 044-333-3997	しょうらくじ 正樂寺	〒225 横浜市青葉区新石川1-10-8 佐々木泰博 ☎ 044-522-1961
こうがんじ 高元寺	〒211 川崎市中原区宮内4-3-12 宮本 義孝 ☎ 044-777-6544	ちょうねんじ 長念寺	〒226 横浜市緑区三保町2440 雲居 隆栄 ☎ 045-932-3348
ちょうねんじ 常念寺	〒214 川崎市多摩区登戸1416 小林 泰善 ☎ 044-911-2549	さいがんじ 最願寺	〒230 横浜市鶴見区矢向4-19-18 藤江 昭道 ☎ 045-571-4694
せんりゅうじ 善龍寺	〒215 川崎市麻生区栗木203 古市 道仁 ☎ 044-988-0205	ほうこうじ 宝光寺	〒231 横浜市中区桜木町3-5 藤田 恭順 ☎ 045-201-3509
せんきょうじ 善教寺	〒221 横浜市神奈川区斎藤分町33 斎藤 幸紹 ☎ 045-491-9431	せんじょうじ 宣正寺	〒232 横浜市南区中里3-20-18 早島 大英 ☎ 045-731-2679
きょうがくじ 教覚寺	〒223 横浜市港北区新羽町2396 平等 勝尊 ☎ 045-541-7684	せんねんじ 善然寺	〒232 横浜市南区大岡2-26-17 (代務)藤園 賢雄 ☎ 045-741-2351
こうりんじ 光輪寺	〒223 横浜市港北区下田町3-2-9 村石 恵照 ☎ 045-561-8671	せいらいじ 清来寺	〒241 横浜市旭区今宿南町1895 曾我 求真 ☎ 045-951-0012
とうぜんじ 東善寺	〒224 横浜市都筑区中川7-18-29 長谷尾芳雄 ☎ 045-911-3509	本願寺築地別院都市開教布教所	
じゅふくじ 寿福寺	〒224 横浜市都筑区茅ヶ崎東1-7-1 多田 龍空 ☎ 045-942-3721	横浜 布教所	〒240 横浜市保土ヶ谷区和田2-12-19 開田 蓮成 ☎ 045-341-7455
さいじょうじ 最乗寺	〒224 横浜市都筑区勝田町1277 日野 教昭 ☎ 045-941-3541	三ツ境 布教所	〒241 横浜市旭区笹野台3-9-9 原田 晃英 ☎ 045-364-2266
		磯子 布教所	〒231 横浜市中区根岸加曾台25-47 中戸 達雄 ☎ 045-623-4480
		川崎 布教所	〒213 川崎市高津区下作延845-16 加藤 孝充 ☎ 044-855-2780

かながわそ 「神奈川組」とは…

私たちの教団(浄土真宗本願寺派)は、全国に一万余りの寺院を擁し教団独自の地区割をしています。その一番小さな単位を「組」といいます。神奈川組は、川崎市と横浜市中部と北部の寺院によって構成されています。

浄土真宗本願寺派東京教区神奈川組

組長／林 信順 教区会議員／曾我 求真
副組長／斎藤 幸紹 金子 貞夫(門徒)
副組長・相談員／小林 泰善
相談員補佐／早島 大英

一茶の仰向から

蓮如上人の『御文草』

には、それ終わりに
「あなかしこ、あなかしこ」という、手紙の末尾に記す敬具に当
たるもののが付いています。その「あなかしこ」を使った句に、

年もはや穴かしこ也 加来様

六十五歳の最晩年に近づいたんでしょう。自分はもうよい
よ老境に入り、お浄土に往く歳頃になつたというんで、人生の
終わりという意味で「穴かしこ也」と。これはちょっとおどけ
たようですがれど、でも自分がこの世を終わつて生まれていく
世界が、西方の浄土であると信じていますから、決して悲しく
ないのです。年もはや穴かしこ也 加来様。

後生の一大事を解決し、如来に任せきつた一茶の姿が目に浮
かびますね。

早島鏡正著『念佛一茶』

四季社刊より

編集後記

「談合」は、今は悪い意味で使わ
れるが、蓮如上人は、「よくよく
談合すべき」と言られた。

談合とは、お互に話し合うこと。
仏教の教えを黙つて聞いているだけ
ではいけない、ひとは自分の都
合の良いように聞くからである。

そして、上人は、「話し合ひをす
ると、お互の本音も聞けるし、
また聞き誤りが分かり直してもうら
えるから」と言われた。

神奈川組で取り組んでいる「連
研」は、「談合」なのである。自ら
の疑問 質問はしまわず、積極的
に話し合ひすべきである（M・Y）



浄土真宗本願寺派（西本願寺）

淨土真宗 最乗寺

〒224 横浜市都筑区勝田町1277
電話 045 (211) 3541

組報かながわ No.10

■発行日 1997年3月15日
(毎年1回3月発行)

■編集発行 浄土真宗本願寺派
東京教区神奈川組
基幹運動推進委員会

〒210 川崎市川崎区京町1-14-3 光徳寺内